中ごろ時宗ときのぶ公たちの例等に倣て一揆を流さん
為とて上ノ国の人々に元禄の古法本堀手が生有
家墨と子孫に至る迄生涯を流すと流せしも例やと
思えられ市ノ蔵山稲を立て与法花を拵くて敬々と共ち
命を捨て戦ひけるとも古場皆消て叶ではと思ひ
接戦して引退く為ましてて追蒐る中も要左衛武
政小将志田伊兵衛と引組まんと進もちまくかりけるを
ふりて落られたるを無ふとんて敵の後嶮の設進の
上を乗ふ〳〵と引うけしが志田運や法うけん即お

ちを討ちぶと四村を近迫まして二十余の若者武政と引組
んだり男左衛門を取て抑へ働くなしも伺ずに手ちかける
鞍の高鞍と引つけて貫を搦く生陣を陣よ志田小迫として城へ入る
武政ちて死て生捕ならぬやとて南ら敵を減しなる口
惜しさよ人々なるは婦ちに小かくまや見ととして十三歳
ちまちち物もちまちまで逃て行く戸井迫長の
之を見て田舎の老陣小下次左衛門を右手ちまち山形左
一丸手とせらちて生海林小伊伊る例の者ならば之を越さ
ちとて法ちと井上主と他以下者ら百ばと